

超克するかたち

彫刻と立体

1997年3月19日(水) - 4月24日(木)

休館日：月曜日

開館時間：午前10時 - 午後6時

(入場は午後5時30分まで)

毎週金曜日は午後8時まで

(入場は午後7時30分まで)

入場料：一般800円(640円)

大学・高校生560円(450円)

中・小学生240円(200円)

()内は前売・団体30名以上料金

ハローダイヤル：043-227-8600

主催：千葉市美術館 / 千葉日报社



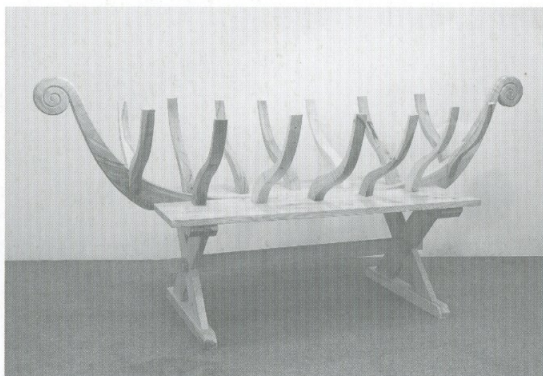
1960年代後半からの日本における彫刻の展開は、すぐれて創造的な作家たちによって、それまでの成果を踏まえた表現が行われています。彼らは近代彫刻ほんらいの課題を継承し、再現的な表現を超え、素材やストラクチュア(構造)によって作品そのものが持つ「存在」をどのように表現するか、という意識を先鋭化しているのです。

また同時期に、彫刻とは違ったありようを示しながら三次元の空間に展開する表現—立体—を模索する作家たちが現れるようになりました。彼らは作

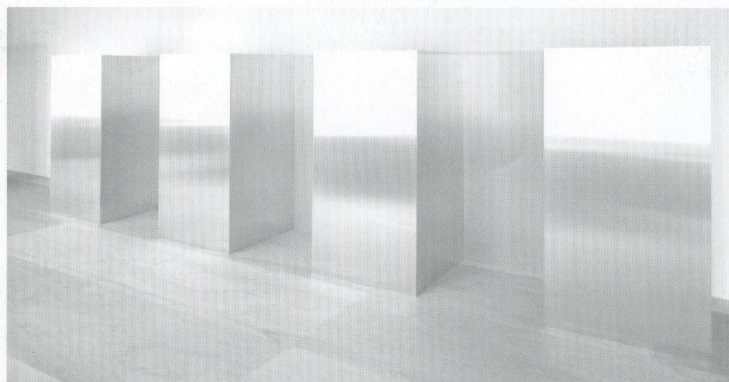
品が置かれた空間の「存在」そのものを作品の持つ異化作用によって露呈させています。このことから立体は「存在」に対して演繹的なアプローチをこころみる彫刻とは異なり、帰納法的な表現であるといえるかもしれません。

本展はこの「彫刻」と「立体」を代表する作家たちの作品によって、ふたつの表現の共通性と差異を考えるとともに、1960年代後半から現在までの日本の現代美術が獲得した成果を検証するものです。

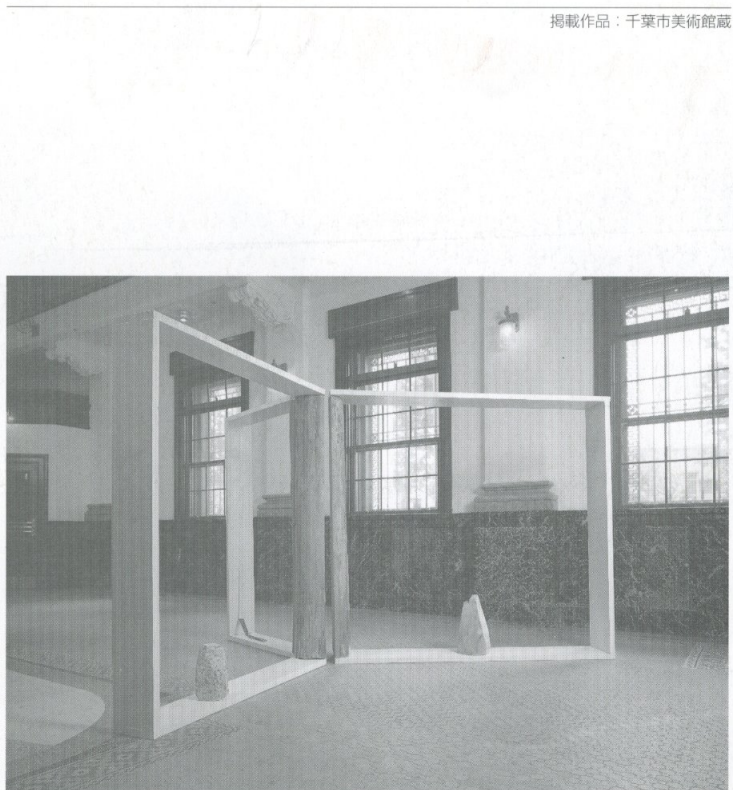
出品作家：斎藤義重／土谷武／村岡三郎／福嶋敬恭／菅木志雄／小清水漸／八木正



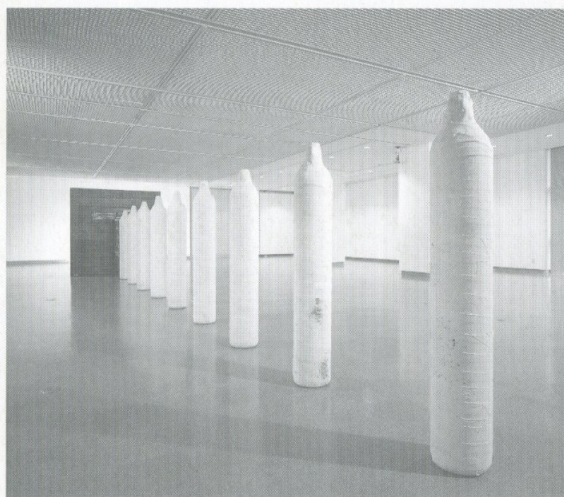
小清水 漸 デウカリオンの机 (1983)



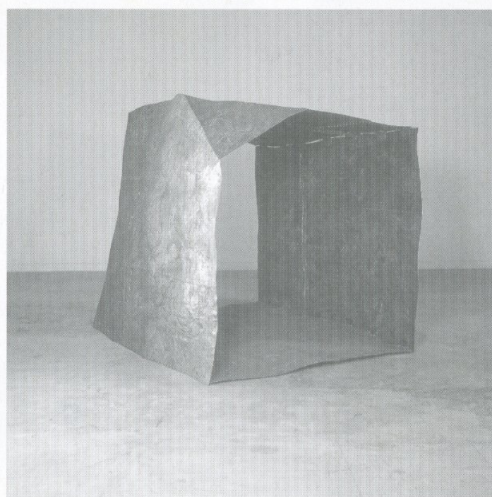
福嶋敬恭 無題 (1) (1979) 撮影：美術出版社



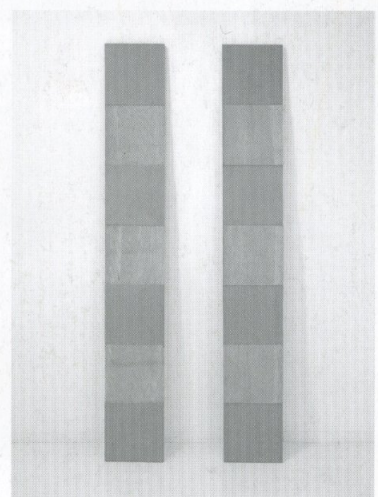
菅 木志雄 AIR POND (1985)



村岡三郎 10本の酸素 (1989)



土谷 武 呼吸するかたち B (1992) 撮影：野堀成美



八木 正 中間子 (1980)

シンポジウム「表面と構造」

司会：谷新（美術評論家）
 パネラー：土谷武・村岡三郎・福嶋敬恭・小清水漸
 日時：3月29日（土）午後2時より
 会場：千葉市美術館11階講堂
 ※先着順に150名まで受付

ギャラリートーク

日時：4月12日（土）／19日（土）
 いずれも午後2時より
 場所：8階展示室前にて受付

同時開催

平成7・8年度新収蔵作品展：3月19日—5月5日

次回予告

フォルクヴァング美術館展（仮称）：4月29日—6月15日

千葉市美術館

〒260 千葉市中央区中央3-10-8
 Telephone：043-221-2311

JR東日本千葉駅利用

- 東口より徒歩約15分
- 京成バス大学病院行（のりば⑦）「大和橋」下車徒歩2分
- 京成バス矢作台市営住宅・川戸行（のりば⑦）または小湊バス姉崎行（のりば④）「広小路」下車徒歩1分
- 無料巡回シャトルバス・チーバス（のりば⑩）「中央区役所・美術館前」下車 11:00—18:00の毎時05分と35分に発車（水曜日運休）

京成電鉄千葉中央駅利用

- 東口より徒歩約10分

※来館者用駐車場は少ないので、自家用車での来館はご遠慮ください。

